



《22. 1. 25 第165号》

健民運動 かわら版

発行：石川県健民運動推進本部
金沢市鞍月1丁目1番地
県民文化局県民交流課内
TEL 076-225-1365

ホームページ

健民運動

検索

(E-mail) kenmin-i@pref.ishikawa.lg.jp



<プリムラ・マラコイデス(西洋桜草)>

～毎月第3日曜日は「家庭の日」です。家族とのふれあいを大切にしましょう～

鼓 動

「40周年を終えて」

金沢日曜野球連盟 理事長 吉江 英一

環境・文化活動の推進

- ◇第38回（H21年度）ふるさとのツバメ総調査結果報告
- ◇「健民桜名所づくり運動」紹介その2

青少年健全育成活動の推進

- ◇第12回子どもドリームフェスティバル開催

健民運動活動紹介・奨励コーナー

- ◇平成21年度ふるさと文化再発見事業の取り組み紹介
- ◇「くらしの本棚」発行に向けて

健民運動カレンダー

県民ボランティアセンターだより



1.11(月・祝)：「子どもドリームフェスティバル」でダンスを披露する小学生

薫 風

「石川郷土史学会のあゆみ」

石川郷土史学会 常任幹事 河島 満

鼓 動

「40周年を終えて」

金沢日曜野球連盟 理事長 吉江 英一

「ワ～すごい」「オ～カッコイイ」「綺麗な～、テレビと一緒にや」数々の歓声^{こだま}が、皆の鼓動が伝わってきます。そう、ここは中日ドラゴンズの本拠地「ナゴヤドーム」です。平成21年5月3日ゴールデンウィークの最中、「金沢日曜野球連盟創立40周年記念ナゴヤドーム大会」が挙行されました。参加者は選手、役員、同伴家族合わせて150人。午前6時30分に金沢を発ち、11時より開会式後4試合を行いました。北陸地方のアマチュア野球では初めてのナゴヤドームを使っただけの大会ということでした。レベルの高い試合もあれば、これぞ草野球という試合もありましたが、参加者全員プロ野球で使われているグラウンドを堪能しました。

当連盟では過去にも、20周年・25周年に東京ドーム、35周年に大阪ドームを使っただけの記念試合を行ってきましたが、いずれも深夜の試合で、ゴールデンウィークの昼間に試合ができたのは、望外の喜びでした。

当連盟は、平日の早朝に野球ができない市場の人たちが中心となり、日曜日に野球をしようということで昭和45年に発足しました。当初は、9チームの参加でしたが、昭和55年には84チームに達し、現在は65チーム約1,200人の人たちがプレーしています。選手の中には、甲子園球児もいれば、全く野球経験のない人もいますが、皆楽しくプレーしているようです。というのも、A級・B級・C級とレベルに合わせたリーグ割により、力の拮抗したチーム同士が試合をしているからだと思われます。

県内のアマチュア野球をみると、近年、年を重ねた多くの人たちが、いろいろな大会に参加し、生涯スポーツとして、野球を楽しんでいます。その中には、当連盟でかってプレーした多くの名選手が、いまや、迷選手と変身して、和気あいあいとプレーしており、その姿を見るととても和やかな気持ちになります。

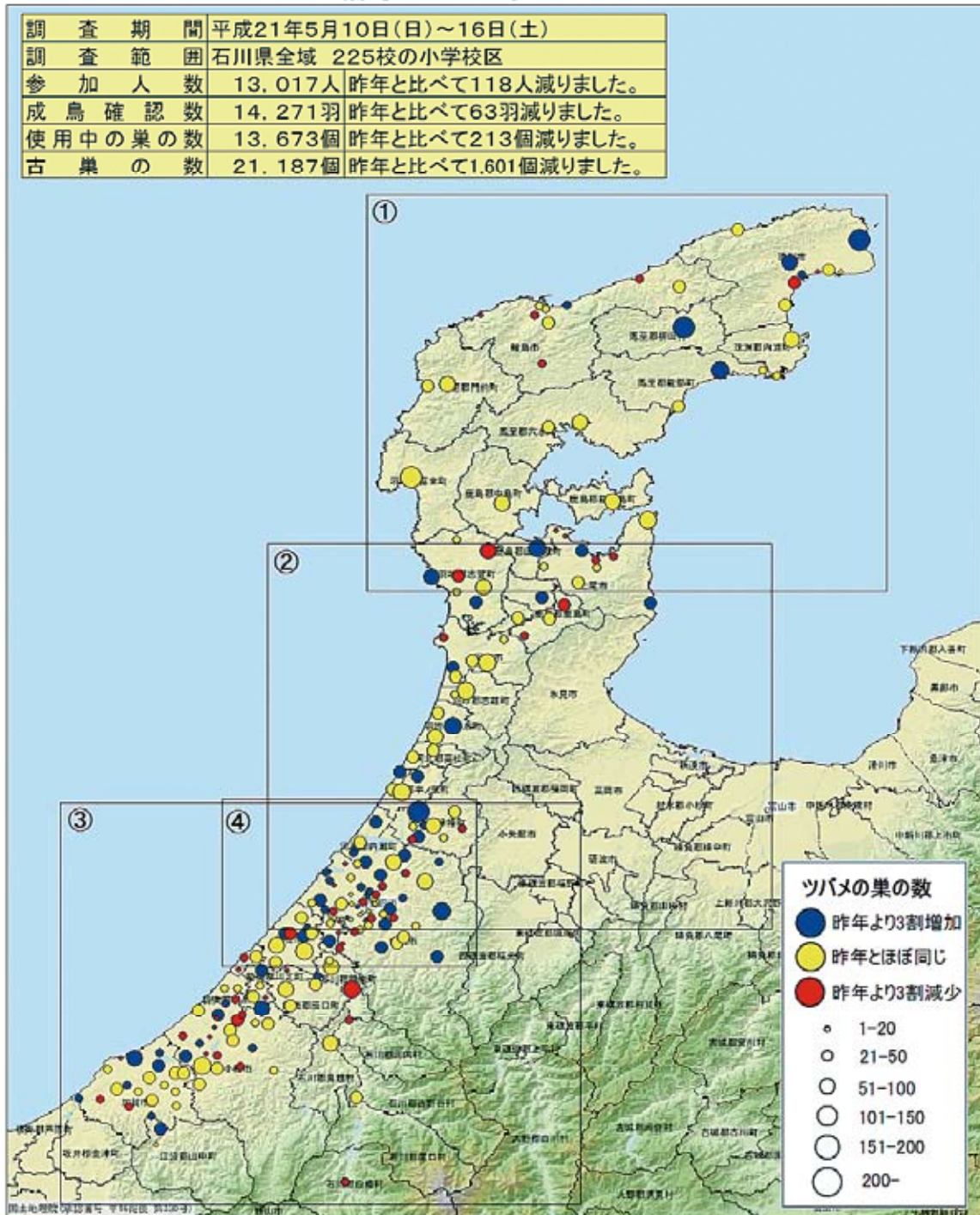


当連盟は、多くの人たちが楽しく野球ができるよう工夫しながら運営し、生涯スポーツとしての野球の普及に努めるのが責務と考えております。

環境・文化活動の推進

第38回(平成21年)ふるさとのツバメ総調査 結果

ご協力ありがとうございました



各学校の「ツバメの巣の数」の概要について、下記の2つのホームページ内に詳細地図が掲載されています。
インターネットで検索して、ホームページをご覧ください。

[野鳥に親しむ運動](#)

検索

[ツバメかんさつ全国ネットワーク](#)

検索



①～④は拡大図をインターネット上に用意してあります。①～④図には、学校名が記入されています。

この地図はNPO法人パードリサーチの協力で作成しました。

◇「健民桜名所づくり運動」紹介その2

当健民運動推進本部では、地域における桜の新名所づくりと桜の美しい石川県づくりを県民総ぐるみで推進しています。植樹の様子を紹介します。

○白山市立蝶屋公民館（白山市美川中町）

11月14日（土）午前9時から「蝶屋っ子さくら探検隊（33名）」の結成式に続き植樹を行いました。雨模様の天気でしたが、植樹の間は雨が止み幸いでした。子どもたちに自分が植えた木を覚えてもらうため、すべての木に名所づくりの名札を付けました。児童や保護者等約50人参加。



○（財）小松市施設管理公社(大倉岳高原スキー施設管理事務所)

スキー場の地盤が悪く(岩が多い)、土壌改良に手間取りましたが、今回初めて、町内会の支援を受け13名で10本の植樹を行いました。

地元との交流が深まりよかったです。



○緑愛好会（七尾市中島町）

7年ほど前初めてソメイヨシノ（100本ほど）を植樹しましたが、塩害のため2割強が枯れてしまいました。

今年は塩害に強い品種を選び、家族2人で50本を植樹しました。



青少年健全育成活動の推進

◇第12回子どもドリームフェスティバル開催

1月11日（月・祝）午後1時30分より県立音楽堂邦楽ホールにおいて上記フェスティバルが開催されました。当日は、県内60件の応募の中から選ばれた6団体の子どもたちが、それぞれの夢の実現に取り組んだ成果を、約500人の観客の前で発表しました。

発表に先立ち健民運動推進本部長である谷本正憲県知事が挨拶し、1月4日に松井秀喜選手から先のワールドシリーズでの優勝と日本人初となるMVP受賞の報告を受けたことを披露し、子どもたちには、松井選手のように一層の夢の実現に向けて努力してほしいと激励したほか、実行委員や保護者の方々に対して感謝の言葉を述べました。



<谷本本部長
(県知事)>

第12回子どもドリームフェスティバル

主催：石川県、石川県健民運動推進本部、後援：石川県教育委員会



左上：輪島市立門前西小学校、白山麓・ぶなもり自然塾、羽咋市立羽咋小学校の皆さん

右上：金沢市立森本中学校、珠洲市立みさき小学校の皆さん

左下：小松市立芦城小学校の皆さん

1 西小ありがとうコンサート（輪島市立門前西小学校6年）

能登半島地震で大きな被害を受けた自分たちの町を支え、励ましてくれた大勢の人へ「ありがとう」の心を込めてコンサートを開きたいという夢を11月に実現した門前西小の子ども達は、これまでの活動をふりかえるとともに、当日のプログラムからアイドルグループ「嵐」のヒット曲にあわせて創作したダンス2曲を披露したほか、「勇気一つを友にして」を合唱しました。楽しく元気に踊る様子に、会場からは音楽にあわせて手拍子が送られました。



<開会前舞台袖で知事との歓談>



<ダンスを披露する児童たち>



<展示の準備をする実行委員の皆さん>



<インタビューを受ける児童たち>

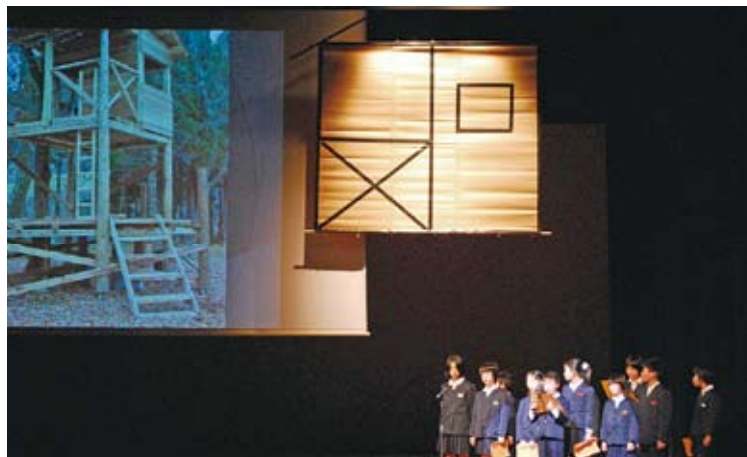
2 ツリーハウスをつくりたい！（白山麓・ぶなもり自然塾）

子ども達は、豊かな自然に囲まれた白山市立白嶺小学校の裏にある雑木林の様子やツリーハウスの完成までのプロセスを、スライドを使って紹介しました。

みんなで力を合わせて作ったこと、もっと身近な自然と仲良くなるために、ツリーハウスを利用して動物の生態観察などいろいろな活動をしていきたいということなどを発表しました。また、完成のシーンでは、屋根の上まで7mという、実物のツリーハウスの大きさを現す模型も登場し、会場の注目を集めました。



<開会前に大道具の準備をする実行委員の皆さん>



<発表する子どもたち>



<ツリーハウスに飾られたリースも登場>



<飛び入りでサポーターの方が客席からインタビューに参加>

3 もっと知ろう、広めよう「能登野菜・加賀野菜」^{いつせいふうび}（一世風靡羽咋小4年）

子ども達は、能登野菜、加賀野菜について、もっと知り、みんなに広めたいと思い、家の人に聞いたり、インターネットで調べて学習したこと、栽培農家の見学や能登野菜・加賀野菜を使った料理に挑戦した様子を、元気よく発表しました。また、野菜新聞を発行して家族に読んでもらったことも紹介しました。



<インタビューを受ける子どもたち>



<発表する子どもたち>



<観客に源助大根をプレゼントする子どもたち>



<手作りの新聞>



4 ぼくたちの作った学年の歌をオーケストラの演奏で歌いたい

(小松市立芦城小学校6年)

子ども達は、小松市立高等学校吹奏楽部50名の演奏に合わせて、昨年の6年生が作った「芦城の色～The Color Rojo～」と、子ども達自身の学年目標から詩を作り曲をつけた「ぼくらの合い言葉～自分から、自分たちから～」の2曲を、それぞれの思いの色のTシャツを着て、合唱しました。



<夢の発表をする子どもたち>



<高校生の演奏で合唱>

<インタビューを受ける子どもたちと高校生代表>



<実行委員の方々も会場後ろで…>

5 災害が起きても困らないようにサバイバル体験がしたい

(金沢市立森本中学校1年4組)

子ども達は、1泊2日のサバイバル体験の様子をはじめ、金沢市消防本部へ行き、地震体験をしたこと、消火器の使い方や119番通報の留意点を学んだこと、そして、救命講習で学んだ心肺



蘇生法やAEDの使い方などをスライドとビデオ映像を使い、寸劇もまじえてわかりやすく紹介しました。



6 植林をして環境問題を訴えたい（珠洲市立みさき小学校6年）

子ども達は、理科の授業で蛸島漁協の漁師さん達が魚を取り戻そうと植林をしていることを知り、自分たちも植林をして環境問題を訴えたいという夢を持ちました。

森や海について学んだこと、漁師さんや森林組合の方達の協力を得て「いしかわ漁民の森」に植林したことなどをスライドや劇で発表しました。

そして珠洲の海がいつまでもきれいな海であるようにとの思いを込めた歌を歌い、将来の海の絵を披露しました。



<夢の実現・植林の劇>



<三線とキーボードによる伴奏>



<きれいな海であるようにとの思いを込めた歌を合唱>



<子どもたちの願う将来の海の絵>

健民運動紹介・奨励コーナー

◇平成21年度ふるさと文化 再発見事業の取り組み紹介

今年度のふるさと文化再発見事業に採択された加賀市分校地区史跡保存会の『エヌのクニ「風土記の杜」づくり』事業の取り組みを紹介します。

同保存会は、分校地区の古墳群が過去の山砂取りや盗掘などで荒れていたことから、古墳群などの歴史遺産や史跡などを調査し、歴史講座や遺跡見学会等を行い、ふるさとの文化の継承を図りたいという思いから取り組んでいます。

リーフレットやCD（「ふるさとの自然や歴史」）を作成し、地域住民や子どもたちに歴史の重要性や里山の大切さを伝承し、発信する計画を立てました。

リーフレットは7月初旬にできあがり、CDは3月末に完成予定です。

リーフレットを活用した「ふる里歴史講座」を7月26日（日）に小松市教育委員会の樫田 誠氏を講師に迎え、「江沼、能美古墳群から見たエヌの国造り」という演題で開催しました。また、10月25日（日）には、子どもたちを対象に里山の歴史を聞く会を開催しました。



左上：7.26 歴史講座

右上：リーフレットの一部分

右下：10.25 植樹をしながら里山の歴史を聞く会

～エヌのクニのものがたり～

沼や入江で低湿な江沼平地にエヌのクニづくりが始まったのはいつの頃であつたらうか？ 弥生時代に始まった稲作は、河川ごとにムラムラの発達を促したが水利の良し悪しで集落の格差を強め次第に水系ごとにまとまりを見せ始めた。

今から約2000年前、弥生後期になると動橋川、大聖寺川、八日市川の各流域を支配する分校、南郷、菅波に集約されてきたが、3世紀からの古墳時代前期頃にはこの有力支配層の中から分校前山の首長がエヌマの全地域を治める広域首長となり初期のエヌの王として君臨した。分校地域で5代続いたエヌの支配権はその後大聖寺川流域の南郷地域へ移ったが5世紀後半頃には再び動橋川水系西側の狐山に代わり、武力を伴った本格的なエヌのクニの王が誕生した。その後、統治は転々とするがエヌのクニの統治権を世襲した王家が江沼国造となりエヌ氏を名乗るようになった。3世紀代に分校前山から始まったエヌのクニづくりは、5世紀後半の狐山で完成し8世紀の律令制のもとで加賀の国江沼郡へと時代は替わっていった。

文化庁認定重要遺跡 分校古墳群

古墳名	築造年代	古墳配置
前山古墳群	3～4世紀	前方後円墳4基を含む円墳、方墳など約30基
高山古墳	5世紀始	前方後円墳1基(消滅)
子八カ古墳群	5世紀前半	円墳、方墳など18基
山王古墳群	6世紀代	円墳2基(消滅)

※その他カンナビ古墳群、お寺山古墳群など総数約70基以上が点在

古代エヌのクニ 広域首長墳の変遷

築造年代	古墳名
1.古墳時代 前期(3～4世紀代)	分校・前山古墳(4代)
2.古墳時代 中期(5世紀初期)	分校・高山古墳(1代)
3.古墳時代 中期(5世紀前期)	南郷・黒瀬古墳
4.古墳時代 後期(5世紀後半)	二子塚・狐山古墳
5.古墳時代 後期(5世紀後半)	富塚・丸山古墳
6.古墳時代 後期(6世紀代)	月津・三湖台古墳



◇「くらしの本棚」の発行に向けて

当本部の広報誌「くらしの本棚 第65号」の発行に向けて、12月17日(木)にふじひら保育園(野々市町)を取材に行ってきたので紹介します。

平成21年4月に開園したふじひら保育園の玄関を入ってすぐのところに「ふじひら・ぶんこ」があり、園児は1回に1冊、1週間借りることができます。また、「パパ・ママぶんこ」コーナーもあり、保護者のために図書の貸し出しをしています。

当日は、園長先生自作の仕掛け絵本の読み聞かせの様子を観せていただきました。園長先生は、絵本や紙芝居、お話に必要な小道具などを手作りされているそうです。



<「もう一回見せて!」とリクエストをする子どもたち>



<仕掛け絵本(園長先生自作)の読み聞かせ>



<園長先生手作りの絵本、紙芝居や遊具>



2～3月の 健民運動カレンダー

(H22. 1. 25現在)



- 2 / 4 (木) 13:30～
ボランティア賞授賞式
会場：県庁舎 1109 会議室
主催：健民運動推進本部
- 2 / 14 (日) 9:00～
第3回石川県審判員(金沢地区) ゲートボール大会
会場：野々市町スポーツランド「さわやかホール」
主催：石川県ゲートボール協会
- 2 / 21 (日) 9:00～
130回2月(旧正月) ウォーク
会場：にし茶屋観光駐車場
主催：石川県歩こう会連絡協議会
- 2 / 28 (日) 13:30～16:00
平成21年度たくましい石川っ子を育てる県民のつどい
会場：いしかわ子ども交流センター大ホール
主催：石川県
- 3 / 28 (日) 9:00～
131回卯辰山山麓寺院郡「心の道」を歩きましょう
会場：元町児童公園
主催：石川県歩こう会連絡協議会

県民ボランティアセンターだより

* 収集物(1月分) * <使用済み切手>

出納室、医療対策課、県民生活課、管財課 計 4 件
ご協力ありがとうございました。

ご提供いただきました使用済み切手、書き損じはがきにつきましては、さまざまな支援を必要としている人々に役立てていただいております。ぜひお寄せください。

* ひとこと *

昨年、みなさまからお寄せいただきました使用済み切手の一部(約13kg)につきましては、平成21年12月16日に「(社)スコール家庭教育振興協会 石川スクール、ボランティアグループ たんぽぽ」に寄託し、福祉事業等に役立てていただくことと致しました。ご協力ありがとうございました。

(財) 石川県県民ボランティアセンター

〒920-0962
金沢市広坂2丁目1番1号 石川県広坂庁舎 4階
tel:076-223-9558 fax:076-223-9559
e-mail:e130500a@pref.ishikawa.lg.jp

薫風

「石川郷土史学会のあゆみ」

石川郷土史学会 常任幹事 河島 満

石川郷土史学会は昭和27年に発足し、平成22年1月で約58年の歴史を持つ会です。

当会の目的には次のようなことが定められています。2、3記しますと

- 1 研究会の開催
- 2 文献資料の調整並びに公刊
- 3 中央および地方の各種学会との連絡
- 4 研究機関誌の発行等

となっています。



平成14年に当会50周年記念誌として刊行した「石川郷土史学会50年のあゆみ」に記載されているものを抜粋し、簡単に紹介します。

昭和27年に当時の石川県立図書館長市村氏の肝煎りで、これまでの加越能史談会、金沢文化研究会等の伝統を嗣ぎ、新たに生まれたもので、その当時は、16名の会員で構成されていました。

これまでの実績を振り返りますと、

- 1 月例発表会は、昭和27年8月以降400回
- 2 五学会連合研究発表会は、昭和26年以降59回（当会は第4回から参加）
*五学会とは、「石川考古学研究会」「石川地理学会」「加能民俗の会」「北陸史学会」「石川郷土史学会」の5団体です。
- 3 歴史散歩は、昭和32年7月から数えて83回
- 4 石川郷土史学会会誌は、昭和43年の創刊から42号を数えるなど、息長く継続しているものばかりです。



<地域に埋もれた史跡を巡り、歴史を再発見する石川郷土史学会主催「金沢歴史散歩[探訪二俣本泉寺界限]事業」の様子>

終わりに、郷土の歴史に関心のおありの方の入会を歓迎します。

事務局 石川県立図書館内
電話 076-223-9577

毎月7日は「健康の日」です。
～歩くことから健康づくり、運動することを習慣にしましょう。～



毎月第3日曜日は「家庭の日」です
～ 家族とのふれあいを大切にしましょう ～